

☆RIM LORRY RACK PRICE INTELLIGENCE DAILY

★No.5189 Apr 30 2020

Copyright(C) 2020 RIM Intelligence Co. All rights reserved.

東京時間2020年4月30日木曜日17時30分<Assessment Closing Time>

「リム価格」は登録商標です 登録番号・第5387777号

「4リム価格」は登録商標です 登録番号・第5660925号

「リムラック価格」は登録商標です 登録番号・第5660926号

◎お知らせ

○ゴールデンウィーク期間中の休刊スケジュールについて

リム情報開発株式会社は、2020年4月29日(水)および、5月4日(月)から5月6日(水)まで、ゴールデンウィーク休暇のためローリーラックレポートを休刊させていただきます。休暇後の発行再開は5月7日(木)からとなります。当社ウェブサイトで、2020年の休刊スケジュールをご確認いただけます。下記のURLよりご覧ください。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/RimHolidayNotice2020JP.pdf>

OPRA原則遵守に関する検証報告書の公開

リム情報開発は2月27日、証券監督者国際機構(IOSCO)により定められた石油価格報告機関(PRA)に対する原則の遵守に関し、合理的保証に基づく検証報告書をウェブで公開しました。当社が発刊する全ての日刊レポートが対象となります。

<対象レポート>

バンカーオイル、原油・コンデンセート、アジア石油製品(Products)、LPG、ローリーラック、ジャパン石油製品、石油化学、LNG、電力

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/pramenu4/>

◎リムエネルギー総合指数22種(レックス22、2010年平均=100)

30日のレックス22は、28日から2.39ポイント低下し42.49です

-----リムレポートのご紹介-----

リム情報開発のレポートラインアップは、下記のURLからアクセスください。各レポートのサンプルに加え、内容についての詳細な説明がご覧いただけます。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/first/report>

原油・コンデンセート	アジア石油製品	バンカーオイル
ローリーラック(国内陸上)	ジャパン石油製品(国内海上)	LPG LNG
石油化学	ポリオレフィン	電力
バイオマス(週刊)	デイリーデータ	Rim Data File
CROSS VIEW軽油	CROSS VIEW重油	エネルギー通信

上記に関するお問い合わせは、TEL 03-3552-2411 E-mail info@rim-intelligence.co.jp

東京時間2020年4月30日木曜日17時30分<Assessment Closing Time>

◎東名阪製油所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	千葉	中値	前日比	川崎	中値	前日比	京浜中値	前日比
ガソリン	23.7~24.7	24.20	-0.85	24.2~25.2	24.70	-0.35	24.45	-0.60
灯油	26.3~27.0	26.65	-0.40	26.3~27.0	26.65	-0.40	26.65	-0.40
課税軽油	25.7~26.5	26.10	-0.45	25.7~26.5	26.10	-0.45	26.10	-0.45
未課税軽油	26.7~27.1	26.90	+0.20	26.7~27.1	26.90	+0.20	26.90	+0.20
A重油	25.0~25.3	25.15	+0.25	24.9~25.3	25.10	+0.20	25.13	+0.23
LSA重油	25.5~25.8	25.65	+0.25	25.4~25.8	25.60	+0.20	25.63	+0.23

油種	中京	中値	前日比	阪神	中値	前日比	4リム中値	前日比
ガソリン	24.2~24.7	24.45	-0.75	24.0~24.7	24.35	-0.85	24.43	-0.70
灯油	26.2~27.0	26.60	-0.90	26.5~27.3	26.90	-0.25	26.70	-0.49
課税軽油	25.0~26.0	25.50	-1.00	25.5~26.3	25.90	-0.85	25.90	-0.69
未課税軽油	26.5~27.0	26.75	-0.25	26.5~27.0	26.75	-0.25	26.83	-0.02
A重油	24.8~25.5	25.15	-0.35	24.8~25.5	25.15	+0.10	25.14	+0.05
LSA重油	25.3~26.0	25.65	-0.35	25.3~26.0	25.65	+0.10	25.64	+0.05

◎東名阪油槽所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	八潮	中値	前日比	横浜	中値	前日比	京浜中値	前日比
ガソリン	25.0~26.0	25.50	-4.50	28.2~28.4	28.30	+0.20	26.90	-2.15
灯油	27.3~28.3	27.80	-8.50	27.1~27.3	27.20	-4.95	27.50	-6.73
軽油	27.3~28.3	27.80	-7.50	32.2~32.4	32.30	0.00	30.05	-3.75
LSA重油	26.5~26.8	26.65	-5.60	32.2~32.4	32.30	0.00	29.48	-2.80

油種	中京	中値	前日比	阪神	中値	前日比	油槽所中値	前日比
ガソリン	23.5~24.5	24.00	-0.20	24.0~24.7	24.35	-1.35	25.54	-1.46
灯油	26.5~27.5	27.00	-2.00	26.0~27.0	26.50	-3.00	27.13	-4.61
軽油	25.5~26.5	26.00	-0.40	26.0~27.0	26.50	-3.00	28.15	-2.73
LSA重油	25.5~26.5	26.00	0.00	25.5~26.2	25.85	+0.10	27.70	-1.38

※前日比は中値ベース

※製油所の京浜中値は千葉・川崎中値の単純平均値

※4リム中値は千葉・川崎・中京・阪神製油所の単純平均値

※油槽所の京浜中値は八潮、横浜中値の単純平均値

※油槽所中値は八潮、横浜、中京、阪神の単純平均値

※ローリーラック価格、輸入採算価格、海陸市況格差、先物のガソリンはレギュラーが対象で揮発油税53.8円を含まず

※軽油は軽油引取り税32.1円を含まず

※中値は小数点第3位を四捨五入

※原油輸入平均CIF価格の r は修正

※為替は三菱UFJ銀行が午前10時30分に発表する数値を使用

◎東名阪製油所・油槽所出し中値平均値 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	京浜地区	前日比	中京地区	前日比	阪神地区	前日比
ガソリン	25.68	-1.37	24.23	-0.47	24.35	-1.10
灯油	27.08	-3.56	26.80	-1.45	26.70	-1.63
軽油	27.68	-1.34	26.08	-0.55	26.38	-1.37
A重油	25.13	+0.23	25.15	-0.35	25.15	+0.10
LSA重油	27.55	-1.29	25.83	-0.17	25.75	+0.10

※A重油は製油所平均値

◎その他の製油所・油槽所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	北海道	中値	前日比	仙台	中値	前日比
ガソリン	25.3~25.7	25.50	+0.15	25.2~25.4	25.30	+0.20
灯油	26.7~27.0	26.85	+0.20	26.8~27.2	27.00	-0.25
軽油	27.0~27.3	27.15	+0.40	26.0~26.5	26.25	-0.50
A重油	24.8~25.5	25.15	0.00	25.0~25.5	25.25	0.00
LSA重油	-	-	-	25.5~26.0	25.75	0.00

油種	四国	中値	前日比	福岡	中値	前日比
ガソリン	24.7~25.2	24.95	-1.25	24.2~24.7	24.45	-0.25
灯油	27.5~28.0	27.75	-0.75	27.5~28.2	27.85	-1.15
軽油	26.0~27.0	26.50	-0.80	27.0~28.0	27.50	-1.00
A重油	25.9~26.5	26.20	-0.30	26.4~27.2	26.80	-0.40
LSA重油	26.4~27.0	26.70	-0.30	26.9~27.7	27.30	-0.40

※北海道は10月31日でLSA重油のアセスメントを中止しました

◎SS向けスポット卸市況 (円/リットル、ローリー届け、1.0~1.5円運賃圏)

油種	京浜	前日比	中京	前日比	阪神	前日比
ガソリン	78.5~79.5	-2.0	79.0~80.0	-1.0	78.5~79.5	-1.5
灯油	27.5~28.5	-2.3	27.0~28.0	-2.0	28.0~29.0	-2.0
軽油	59.5~60.5	-1.8	60.0~61.0	-1.5	59.5~60.5	-2.0

◎ユーザー向け産業燃料油市況 (円/リットル、ローリー届け、1.5円以下運賃圏、大口向け、5月分)

油種	京浜	前日比	中京	前日比	阪神	前日比
灯油	27.5~28.5	-7.0	27.0~28.0	-2.0	27.5~28.5	-6.5
軽油	58.5~59.5	-0.5	58.5~59.0	-2.8	58.5~59.5	-1.0
A重油	26.5~27.5	-6.5	25.0~26.0	-2.0	26.5~27.5	-6.0
LSA重油	27.0~28.0	-6.5	25.5~26.5	-2.0	27.0~28.0	-6.0

※前日比は中値ベース

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の京浜地区は製油所の京浜中値と油槽所の京浜中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の中京地区は製油所の中京中値と油槽所の中京中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の阪神地区は製油所の阪神中値と油槽所の阪神中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の軽油は製油所の課税、未課税、油槽所の単純平均値

※SS向けスポット卸市況およびユーザー向け産業燃料油市況は揮発油税・軽油引取り税を含む

※中値は小数点第3位を四捨五入

◎東商取バージ先物・日中取引(東京湾岸製油所・油槽所出しバージ取り、円/リットル)

ガスリン	始値	高値	安値	帳入値	前日比	出来高	
6月限	22.00	24.50	22.00	24.10	+2.10	8	
7月限	24.00	25.00	24.00	25.00	+1.91	3	
8月限	25.06	26.55	25.06	26.34	+2.24	15	
9月限	26.13	27.80	25.78	27.53	+2.28	29	
10月限	27.53	29.50	27.47	28.45	+2.31	124	
11月限	28.42	30.83	28.42	29.41	+2.41	184	
合計						363	
灯油							
6月限	27.14	27.50	27.14	27.50	-0.59	2	
7月限	-	-	-	25.45	0.00	-	
8月限	27.31	27.31	27.31	27.31	+0.81	2	
9月限	30.47	30.47	30.47	30.47	+2.57	1	
10月限	29.81	31.12	29.81	31.12	+2.68	16	
11月限	31.09	32.00	31.09	31.85	+2.59	17	
合計						38	
軽油							
6月限	-	-	-	41.80	+3.00	-	
7月限	-	-	-	42.80	+3.00	-	
8月限	-	-	-	43.80	+3.00	-	
9月限	-	-	-	44.80	+3.00	-	
10月限	-	-	-	45.80	+3.00	-	
11月限	-	-	-	46.80	+3.00	-	
合計						-	
原油							
4月限	13.77	13.77	13.77	13.77	+0.03	1	
5月限	16.08	17.87	16.08	16.90	+2.70	465	取組高 (4/28)
6月限	17.75	19.74	17.75	18.75	+2.45	272	ガスリン 売 1,782 買 1,782
7月限	18.31	20.21	18.27	19.20	+2.15	475	灯油 売 728 買 728
8月限	19.17	21.02	19.07	20.10	+2.06	1,583	軽油 売 0 買 0
9月限	19.90	21.79	19.73	20.48	+1.78	24,908	原油 売 126,517 買 126,517
合計						27,704	1枚=50kl

◎東商取中京ローリー先物・日中取引(潮見および飛島油槽所出しローリー取り、円/リットル)

ガスリン	始値	高値	安値	帳入値	前日比	出来高	
6月限	-	-	-	23.70	0.00	-	
7月限	-	-	-	27.50	0.00	-	
8月限	-	-	-	29.00	0.00	-	
9月限	-	-	-	34.00	0.00	-	
10月限	-	-	-	34.00	0.00	-	
11月限	-	-	-	34.00	0.00	-	
合計						-	
灯油							
6月限	-	-	-	26.00	0.00	-	
7月限	-	-	-	33.00	0.00	-	
8月限	-	-	-	33.00	0.00	-	
9月限	-	-	-	34.00	0.00	-	取組高 (4/28)
10月限	-	-	-	34.00	0.00	-	ガスリン 売 295 買 295
11月限	-	-	-	34.00	0.00	-	灯油 売 94 買 94
合計						-	1枚=10kl

◎輸入採算価格 (SR船型、韓国出し、関税・石油石炭税込、円/kl)

	北海道	前日比	京浜	前日比	中京	前日比	関門	前日比
ガソリン	22,121	+3,503	21,918	+3,504	21,714	+3,504	21,443	+3,506
灯油	21,737	+2,855	21,533	+2,855	21,330	+2,857	21,058	+2,857
軽油	27,399	+3,856	27,196	+3,857	26,992	+3,857	26,721	+3,859
LSA重油	19,677	+3,873	19,473	+3,873	19,269	+3,874	18,998	+3,875

※SR船型による輸入、LSA重油は免税ベース、軽油は硫黄分10ppm

※輸入採算価格はリムアジア製品レポート掲載のシンガポール市況(ペーパー)をベース

◎海陸市況格差 (陸上4製油所平均-海上バージ市況)

ガソリン	-1.82	灯油	+1.45	未課税軽油	-1.92
A重油	-0.21	LSA重油	-0.21		

※4製油所平均=千葉、川崎、中京、阪神

◎指標原油

WTI (NYMEX 6月限, \$/bbl, 4/29 close)	15.06	+2.72
WTI (NYMEX ACCESS 6月限, \$/bbl, 4/30 5:00pm 東京時間)	16.97	+1.91
ドバイ (ペーパーズワップ, \$/bbl, 4/30 東京夕刻)	19.93 ~ 19.97	+3.10
ドバイ (ペーパーズワップ, 円/kl, 4/30 東京夕刻)	13,536	+2,058
ドバイ (ペーパーズワップ, 円/kl, 4/24~4/30平均)	12,272	+834
ドバイ (ペーパーズワップ, 円/kl, 4/16~4/22平均)	12,763	-2,050
東商取ドバイ原油当限 (円/kl, 4/30 引け)	13,770	+30

◎原油輸入平均CIF価格 (JCC、円/kl、財務省)

20/02/01-29 48,648r	20/03/01-31 42,437r	20/04/01-30 5月21日発表予定
20/02/01-10 49,482	20/03/01-10 46,350	20/04/01-10 33,734
20/02/11-20 48,389	20/03/11-20 41,764	20/04/11-20 5月12日発表予定
20/02/21-29 48,179	20/03/21-31 39,387	20/04/21-30 5月21日発表予定

◎Rim JCC予想値 (円/kl)

20/4月	28,080	±0	20/5月	16,070	-90	20/6月	14,110	+1,870
-------	--------	----	-------	--------	-----	-------	--------	--------

弊社レポートのゴールデンウィーク期間中の休刊スケジュールについては、表紙上の案内をご覧ください。

◎概況・トッパー停止状況=3基、停止率9.6%
○陸上ローリー市況

5月商談に入った東名阪4リム製油所出しは、引き続きガソリンや軽油が冴えない。大型連休後も需要回復が見込めないとの判断から早めの玉捌きに動く卸業者が多かった。ガソリンは千葉と阪神が前日比0.85円、中京が同0.75円、川崎が同0.35円のそれぞれ下げ。軽油も精彩を欠き、とくに課税軽油は前日比0.45~1円の下げ。

地方出荷地は、北海道や仙台で安値玉が一旦整理され、ガソリンや灯油は底上げ。一方、四国と福岡は下振れするなど、東西で市況に明暗が分かれた。

コスモ石油マーケティングは30日と5月14日までの系列仕切り価格を前週比6.5円下げ方針とした。JXTGエネルギーや出光昭和シェルに歩調を合わせた格好だ。

○ドバイ原油市況

ドバイ原油価格は、東京時間の30日夕刻時点で28日比3.1ドル高の19.93～19.97ドル。これを基にした円建て製品コストは同2円高の17.2円と試算される。6月の国内製品コスト推定値は、4月27日～5月25日算定で5月平均値より2.6円安い17円となる見込み。30日のコストが膨らんだものの、足元の原油相場が25日以前と比較し総じて安値圏で推移するため、6月のコストは低下する公算が大きい。

製品コストが現在から同水準で推移する前提で試算した週間コストは、28日～5月1日分が前週比1.2円高の16.5円となりそうだ。一方、30日の日の製品輸入コストは28日と比較し全油種で大幅上昇している。

○元売り市中買い

民族系大手は様子見したほか、民族系最大手や民族系、中堅元売りの動意を伝える市場関係者もいなかった。

○在庫

石油連盟がまとめた25日時点の在庫状況によると、ガソリンは全国ベースで前年比26.1%増の200万28kl、灯油は同29.3%増の140万5,106kl、軽油は同18.5%増の141万8,241kl、A重油は同6.7%減の41万8,515kl、LSA重油は同5.2%増の30万1,857klだった。

○1カ月予報(5月2日～6月1日)

気象庁が30日発表した1カ月予報によると、全国的に気温は平年より高めで推移しそうだ。大型連休の後半となる2～8日はとくに好天に恵まれる見込み。

○4～5月のアセスメント評価対象について

- ① 4月最終日の30日は木曜日となるため、通常どおり翌日の受渡物を評価対象とし、2～7日先までの受渡物が参考となります。
- ② 5月1日のアセスメント価格は、GW期間を挟むため7日木曜日の受渡物を評価対象とし、2～7日先までの受渡物が参考となります。
- ③ GW期間の4月30日、5月1日はレポートを発刊します。
- ④ 5月最終日となる29日は金曜日となるため、6月1日の受渡物を評価対象とし、2～7日先までの受渡物が参考となります。

◎北海道(苫小牧・石狩)

○概況

スポット流通玉市況は白油が反発。5月商談へ移行後、原油市況の騰勢を背景に、白油で値取り姿勢を強める卸業者が増えた。ただ、5月商談になっても民族系大手元売りの系列販社によるメーカー配送の持ち届け売りが相対的に安いため、スポット玉で価格が折り合わないと伝える卸業者が増えた。足元は気配値が先行しており、大型連休という時期的要因も重なり、オーダーの多くは系列回帰が鮮明だ。

○ガソリン

25.3～25.7円（揮発油税込79.1～79.5円）と前日比0.15円高。

1日渡しからの相場は反発。苫小牧出しでは、旧米メジャー系の複数ディーラーが7日期限で79.1～79.7円を唱えた。これに民族系元売り玉を扱う商社系、地場ディーラーの唱えは79.5～80.0円を唱えて追随。苫小牧で79.5円までの玉が依然として広く流通して

おり、79.5円超えの玉は取引対象にならないようだ。

小売市場では1日、札幌市内の主流表示は110～113円へ下落。29日比で2～3円安で推移している。安値表示では、複数の有力ディーラーSSが1円値下げして106.8円の現金看板を掲げている。☆

○灯油

26.7～27.0円と前日比0.2円高。

反発。これまで積極的な販売姿勢を取っていた在庫玉を扱うディーラーが売りを後退させ、5月商談は多くが様子見に退いた。原油市況の騰勢や、先物価格の6月限が27円台で推移していることも影響したようだ。

元売り玉を扱う卸業者は民族系元売り玉の商社系、広域、地場ディーラーが主導。1日渡しからの唱えは苫小牧出しで26.7～27.0円、27.3円以上。主要出し元玉のうち、旧米メジャー系元売り玉を原資に27.0円で買い気を探るディーラーもいたが、他の広域

ディーラーは販売を休止し、様子見に退いた。

苫小牧出しで27.0円以下の玉が市中で一定量流通しているため、27.0円超えの玉は買付け対象にならないと見る市場関係者が多かった。

道央圏の持ち届けの取引では、28.0～28.5円で売買が進められている様子があった。一方、民族系大手の系列販社によるメーカー配送届けでは、27円台の売りも散見。「4月同様に、局地戦で積極的にオーダーを取り込んでいる」（商社系、広域ディーラー）との声も挙がった。

○軽油

27.0～27.3円と前日比0.4円高。

反発。苫小牧出しの商社系、広域ディーラーの民族系元売り玉の未課税の唱えは1日渡しから27.0～27.3円と変化を欠いた。旧米メジャー系元売り玉の広域ディーラーは7日期限で未課税で28.0円まで値上げに踏み切っ

たが、課税では27.0円で反応を探るも新たに出現した。苫小牧出しで27.0円以下の玉が広く流通しているため、27.0円超えの玉は買付け対象になっていない。

道央圏の持ち届けの取引では、61円前後の売買が進められている様子があった。

○重油

A重油は24.8～25.5円と前日から横ばい。

1日渡しからの相場に変動はなかった。民族系元売り玉を扱う商社系、広域、地場ディーラーが相場を形成。1～7日期限の唱えは苫小牧出しが24.8～25.5円、26.0円と変化を欠いた。一方、旧米メジャー系元売り玉の広域

ディーラーは7日期限で26.7円と1.0円の値上げに動いた。市場で民族系元売り玉の25.5円以下の玉が広く流通しているため、25.5円超えの玉は取引対象になっていない。

産燃市場の5月渡しでは、道央圏のリネン工場向けは、届け26円台前半の決着が伝えら

れた。落札は民族系大手元売りの系列販社。
2番札も民族系大手元売りの販社で、灯油同

様に積極的な売り込みが目立つと複数の市場関係者が伝えた。

◎東北（仙台）

○概況

仙台出しのスポット価格は、ガソリンが上伸、灯油、軽油は続落となった。ガソリンは原油価格の上昇や月末の安売りがリセットされたものの、灯油、軽油は先行して売りを急ぐ向きが多かった。ただ、大型連休入りしているため、全体として系列回帰の傾向が強く、オーダーは例年に比べて少ないという。

○ガソリン

25.2～25.4円（揮発油税込み79.0～79.2円）と前日から0.2円高に上昇した。

仙台出しは、大手ディーラーが79.1円に値上げ。月末の売りが一巡したことや、原油価格の上昇を受けて、78円台の玉が見当たらなくなった。地場ディーラーは79円、広域ディーラーは79.2円の価格だった。大型連休入りしたものの、他県からの観光客が少ない上、通勤の車両向けニーズもないことから、販売の落ち込みが著しい。特に前年は改元に合わ

せて10連休となり、天候もよかったことから出荷が好調だったことと、今年是对照的だという。このため、系列回帰の動きが強いと複数が伝えた。

青森、八戸は、広域ディーラーは80.1円、80.4円など午前中は80円台前半の価格が目立った。ただ、系列玉と比べて割安感が乏しいため、反応は鈍かったようだ。午後になって79.7円、79.8円に値下げする向きがみられた。

○灯油

26.8～27.2円と前日比0.25円安になった。

仙台出しは1日以降、大手ディーラーは価格提示を見合わせたまま。一方、地場ディーラーなど複数が26.8円に値下げに動いた。月の後半になれば暖房需要が細ることから、早めに消化しておきたい考えは多い。広域ディーラーは27.0～27.2円の唱えだった。

青森、八戸では、28円台の価格もでている

が、商社系ディーラーが27.5円に値下げした。数量制限はあるものの、オーダーを入れたディーラーが見受けられた。別のディーラーは27.9円など、27円台後半であれば、反応はいいようだ。末端価格が値下がりしていることから、買い控えの動きはなく、足元の荷動きは好調だという。

○軽油

26.0～26.5円と前日から0.5円安に続落。

仙台出しの課税玉は、広域ディーラーが26円に1日からの価格を値下げした。4月に荷動きが鈍かったことから、5月は早めに消化したい向きは多いようだ。地場ディーラーは26.3円の唱えだった。未課税玉では大手ディ

ーラーが28円だが、26.5円の提示が別のディーラーから出ている。

青森、八戸の価格は、課税玉で広域ディーラーが27.4円だが、未課税玉で27.5円の唱えが出ているため、割安感は乏しい。この他では商社系ディーラーから28.5円など28円台

半ばが目立った。

○重油

A重油は25.0～25.5円、LSA重油は25.5～26.0円で前日から横ばい。

仙台出しのA重油は、大手ディーラーが26円に値上げするなど、月変りで価格の上げも目立った。一方で広域ディーラーは25.0円、大手元売り玉の扱い業者は25.5円など、前日と同値の提示も残っている。連年通り大型連休でメーカーの需要が伸び悩むため、消化を急ぎたい考えが聞かれた。LSA

重油との格差は0.5円で推移している。

青森、八戸のA重油は、26円台が多いものの、広域ディーラーが25.8円など25円台後半も一部に残っている。

官公需向けでは、23日に開札した青森県立中央病院向けA重油96klが、届け30.8円で富士見総業が落札した。

◎京浜

○概況

製油所出しではガソリン、灯油、課税軽油が続落した。JXTGエネルギー、出光昭和シェルに続く格好で、コスモ石油マーケティングが仕切り価格を前週から6.5円引き下げた。これによりコスト面での下押し圧力が加わり、相場が押し下げられた。一方、未課税軽油、重油はやや底上げされた。原油相場の急反発で、5月の足元相場にボトム感が出たため、売り気が後退した。

○ガソリン

製油所は千葉出しが前日から0.85円安の23.7～24.7円（揮発油税込み77.5～78.5円）、川崎出しが前日から0.35円安の24.2～25.2円（揮発油税込み78.0～79.0円）。油槽所は東京・埼玉出しが前日から4.5円安の25.0～26.0円（揮発油税込み78.8～79.8円）、横浜出しが前日から0.2円高の28.2～28.4円（揮発油税込み82.0～82.2円）。

製油所出しでは、売りが先行し、相場が圧迫された。民族系元売りが新たに仕切り価格を大幅に引き下げたため、下押し圧力が加わった。販売不振も深刻だ。大型連休中は需要が系列に回帰する傾向が強まるため、スポット市場の買い気が減退。また、日本政府が新型コロナウイルスに関連した緊急事態宣言を当初の想定から1か月程度延長すると伝わり、5月も外出自粛ムードが晴れないとの見方が強まった。需要期にもかかわらず、需要の盛り上がり期待できないことから需給の緩みが

意識される格好となった。主に千葉の出物を買付けの傾向のある民族系大手元売りもこの日は様子見に退き、買い気がみられなかった。5月初日のオーダーのあまりの少なさに、「需要が蒸発している」（広域ディーラー）との声も聞かれた。

千葉製油所出しでは、新たに仕切り価格を引き下げた民族系元売り玉を担いだ複数ディーラーや、中堅元売り玉を扱うディーラーが積極的に手持ちの消化売りを進め、取引相場が77.5～78.5円まで切り下がった。安値圏では、77.3円まで対応する向きもみられたが、こちらは手当可能な業者がごく限られた。一方、川崎製油所出しでは、民族系元売り玉を扱う広域ディーラーや、旧外資系元売り玉を担いだディーラー、旧米メジャー系元売り玉の取扱いディーラーなどが78.0～79.0円まで販売を進め、新たな相場を形成した。

油槽所出しはまちまちだった。東京・埼玉

では製油所市況にさや寄せする格好で販価を引き下げる動きが強まり、相場が圧迫された。三愛東京オイルターミナル出しの4月の販売枠をキャリアしたと思われるディーラーが月初から手持ちの処分を進めたようだ。取引相場は78.8～79.8円まで取引相場が圧迫された。

一方、横浜は底上げされた。原油、先物相場が急反発し、先高期待すら強まったため、手持ちを温存し、様子見に退くプレーヤーが散見された。大東タンクターミナル出しで、有力地場ディーラーが提示する売値を中心に82.0～82.2円まで取引相場が切り上がった。

SS向け届け市場では、運賃1.5円圏内で届け78.5～79.5円まで取引相場が切り下がった。販売不振から届け中心に売り込みを強める業者が見受けられる。専ら中堅元売り玉、民族系元売り玉を担いだ卸業者による販売

競争となっているようだ。「千葉周りでは泥仕合の様相を呈している」（広域ディーラー）との声も聞かれた。

小売市場では30日時点で、国道16号線沿いの岩槻インター周辺にあるSSのレギュラーガソリン主流看板表示は119円と先週から2～3円程度切り下がったようだ。周辺の独立系SSの中には、116～116.9円と一段安の看板を掲げる向きもあるという。「120円台の看板が消滅した」（有力ディーラー）との指摘も聞かれた。

石油連盟がこの日発表した週間在庫統計によると、東日本のガソリン在庫は25日時点で100万kl超まで積み上がった。外出自粛に伴う販売不振で在庫の増加傾向が強まっている。

東商取6月限の帳入値は前日比2.1円高の24.1円（揮発油税込み77.9円）。

○灯油

製油所は千葉出しが前日から0.4円安の26.3～27.0円、川崎出しが前日から0.4円安の26.3～27.0円。油槽所は東京・埼玉出しが前日から8.5円安の27.3～28.3円、横浜出しが前日から4.95円安の27.1～27.3円。

製油所出しでは、ガソリンに引っ張られる格好で売りが強まり、相場が圧迫された。不需求期に差し掛かり、早めに手持ちの処分を終えようとする動きが強まった格好だ。需要の系列回帰が起こり、スポット市場の買い手が乏しいことも相場の下げ要因となったもようだ。

千葉、川崎両製油所出しでは、民族系元売り玉を扱う広域ディーラーや、旧外資系元売り玉の取扱い各社、旧米メジャー系元売り玉を扱う複数ディーラー、中堅元売り玉を扱う地場ディーラー、民族系最大手元売り玉を扱う有力地場ディーラーが26.3～27.0円で販売を進めた。

油槽所出しでも売りが先行した。製油所市況の水準まで値位置を引き下げ、在庫の処分売りを進める業者が多かった。比較的在庫水準が高いとされており、下押し圧力が強かった。東京・埼玉では、三愛東京オイルターミナル出しの千葉製油所市況リンク玉が売り込まれ、取引相場は27.3～28.3円まで切り下がった。4月末は品薄だったが、5月に移行し販売枠がリセットされたため、需給のタイト感が緩和された面もありそうだ。

横浜でも在庫の処分売りが加速した。海上玉市況の軟化などが下げを誘った格好だ。セントラルタンクターミナル(CTT)横浜油槽所の在庫を抱える広域ディーラーが提示する価格を中心に27.1～27.3円まで相場が切り下がった。なお、京浜海上市況は前日比1.35円安の26.25円となった。

東商取6月限の帳入値は前日比0.59円安の27.5円。

○軽油

製油所は課税玉の千葉出しが前日から0.45円安の25.7～26.5円、川崎出しが前日から0.45円安の25.7～26.5円。

未課税玉は千葉出しが前日から0.2円高の26.7～27.1円、川崎出しが前日から0.2円高の26.7～27.1円。油槽所は東京・埼玉出しが前日から7.5円安の27.3～28.3円、横浜出しが前日から横ばいの32.2～32.4円。

製油所出しでは、課税玉が軟化した。販売不振の深刻化懸念から手持ちの早めの処分売りが加速した。緊急事態宣言の延長で、「5月需要は4月より悪化することは必至」（有力ディーラー）との声が聞かれた。「大口、中堅需要家向けは前年比20～30%減、小口需要家向けは70～80%減」（広域ディーラー）との5月の需要試算も聞かれ、「5月の販売枠を減らせばよかった」（同）との後悔の念も漏れた。一方、未課税玉は底上げされた。課税対比でやや割安に推移していたため、一旦値上げし様子見に退く向きが多かった。原油相場の急反発も売り気を削ぐ要因となったようだ。

千葉、川崎両製油所出しの課税玉市場では、民族系元売り玉、旧米メジャー系元売り玉、旧外資系元売り玉、民族系最大手元売り玉、中堅元売り玉をそれぞれ扱う複数の広域系、地場系ディーラーが25.7～26.5円で売り唱え、これが取引相場を形成した。

千葉、川崎両製油所出しの未課税玉市場で

は、旧米メジャー系元売り玉、旧外資系元売り玉、民族系最大手元売り玉の取扱い各社が26.7～27.1円で提示し、新たな相場を形成した。なお、千葉では民族系元売りルートから26.0円で売り唱える業者も見受けられたが、こちらは手当可能な業者がごく限られた。

油槽所出しは東京・埼玉が軟化した。製油所市況並みまで販価を引き下げ、商談を進める業者が散見された。販売不振を懸念した売りが多かった。5月商談への移行で新たな販売枠が設定し直されたことに伴い、4月の品薄が解消され、需給に緩みも出た。三愛東京オイルターミナル出しでは、複数ディーラーが積極的に販売を進め、27.3～28.3円まで取引相場が切り下がった。

一方、横浜では目立った動きがなく、取引相場は32.2～32.4円と変わらなかった。有力ディーラーが大東タンクターミナルから提示する価格が引き続き相場の中値だ。原油相場が急反発したため、一旦様子見に徹するプレーヤーが多かったようだ。

インタンクの週決め交渉では、運賃1.5円圏内で届け58.5～59.5円まで妥結水準が切り下がった。茨城県の地場系運送会社向けに届け58円台半ばの売り込みも散見されるという。運送系ディーラーが積極的に売り攻勢を仕掛けているとの指摘もあった。

○重油

A重油の製油所は千葉出しが前日から0.25円高の25.0～25.3円、川崎出しが前日から0.2円高の24.9～25.3円。

LSA重油の製油所は千葉出しが前日から0.25円高の25.5～25.8円、川崎出しが前日から0.2円高の25.4～25.8円。油槽所は東京・埼玉出しが前日から5.6円安の26.5～26.8円、横浜出しが前日から横ばいの32.2～32.4円。

製油所出しでは、安値玉がやや後退し相場が押し上げられた。原油相場の急騰が卸業者の販売意欲を削ぐ要因となった。ただし、5月も販売が振るわないとみられるため、荷余り懸念を有するプレーヤーは多く、相場の上値は重たかった。

千葉製油所出しLSA重油では、旧外資系、旧米メジャー系両元売りルートからそれぞれ

れ仕入れる複数ディーラーが25.5～25.8円で販売を進めた。民族系元売りルートから一部25.1円までの価格提示もあったが、こちらは流通量が限られたようだ。一方、川崎製油所出しLSA重油では、民族系最大手元売り玉を担いだ有力ディーラーが市場をけん引し、25.4～25.8円で取引可能となった。

油槽所出しLSA重油では、東京・埼玉で在庫の処分売りが強まり、相場が下押された。三愛東京オイルターミナル出しで広域系、地場系ディーラーが26.5～26.8円まで値下げし、買い手の反応をうかがった。

一方、横浜では大きな動きがなく、取引相

場は32.2～32.4円のまま変わらず。引き続き大東タンクターミナルで在庫の販売を進めるディーラーが市況の中値で販売した。

産業用燃料向けLSA重油の週決め交渉では、運賃1.5円圏内で27.0～28.0円で概ねまとまったようだ。化学メーカーの神奈川にある工場向けは届け28円前後、大手自動車部品メーカーの埼玉にある工場向けは同27円台後半で決着したと伝えられた。向け先によっては、同26円台や同29円台での妥結もみられるという。新型コロナの影響で需要家のオーダーサイクルは長くなっているとされ、5月も需要は期待できないとの声も少なくなかった。

◎中京

○概況

5月相場は製油所、9号地ともに続落スタートとなった。元売り3社の大幅仕切り引き下げを織り込み、販価を見直す卸業者が多かった。先高が見通せない中、足元で少しでも数量を捌きたいとの思惑も強く、広域系の中には一步踏み込んだ対応も見受けられた。

気象庁が30日発表した1カ月予報によると、大型連休後半は全国的に晴天に恵まれそうだ。☆

○ガソリン

製油所出しは前日比0.75円安の24.2～24.7円(揮発油税込み78.0～78.5円)、9号地は同0.2円安の23.5～24.5円(同77.3～78.3円)。

5月1日引取り分の製油所、9号地は続落。大型連休も需要が見込めず、卸業者の多くが値下げ対応に動いた。13～14日まで元売り3社の仕切りコストが固まったため、「上げにも動けない」(市場関係者)。

四日市製油所出しでは、旧外資系元売り玉を織り込んだ78円や78.3円、さらに78.5円の売買唱えが散見。民族系元売り玉も織り込んだ78.3円なども寄せられ、市況を形成した。79円台の提示も散見されたが、関心を示す市場関係者はほぼ皆無だった。

一方、中堅元売り玉を取り扱う広域系は表立った提示を見送り、個別対応に終始したようだ。同業間の市況観に合わせた対応との声

も見え隠れ。

中京製油所出しの月間平均値は85.3円で確定した。市場関係者によると、民族系最大手の4月インタック価格は88.5円に試算されるという。

9号地も続落。大手タンク業者は原油や先物急伸を受け、一旦値上げに動いた。78円台半ばまで引き上げている。また、4月に踏み込んだ対応を見せて広域系の一角も中堅元売りターミナル出しで79円台と、5月はスロースタート。

一方、別の広域系は同じく中堅元売り玉をベースに77.3～77.5円を提示し、市場の感触を探った。先物6月限を意識した販価設定だったようだ。同社提示を意識した別の広域系も商社系ターミナルや丸中ターミナルで77.8～78円の提示を展開。

もっとも、急落後と足元原油の反発もあり、「買い手の最安値志向は薄れている」（広域系）との声も寄せられた。実際78～78.3円提示でまとまったオーダーを集める広域系も見受けられた。

地区の全体市況を示す製油所、9号地の平均価格は前日比0.48円安の78.03円。

東商取中京ローリー6月限は前日から変わらずの23.7円(同77.5円)で日中取引を終えた。出来高はゼロ。

津市内の小売価格は、一般セルフ店で実売115～120円と伝えられた。観光地の伊勢や志摩地区は人も少ないため、「値下げしても来客は増えない」（地場系）。

需給面では、石油連盟がまとめた25日現在の在庫状況によると、愛知県や三重県を含む東日本は前年比13.8%増の100万9,545klに積み上がった。東日本で100万klに乗ったのは2017年6月以来。

○灯油

製油所出しは前日比0.9円安の26.2～27.0円、9号地は同2円安の26.5～27.5円。

5月1日引取り分の製油所、9号地は続落。ガソリン同様、先高が描けず、上値が重かった。

四日市製油所出しでは、民族系大手玉を取り扱う卸業者が26.2円を提示、さらに26.5円や26.8円、27円の売買唱えも広く寄せられ、市況を形成した。朝晩の肌寒さや自宅待機の広がり、「暖房需要が思いのほか伸びた」（市場関係者）などの声が度々寄せられ、実際に「4月の販売量は前年比40%増」（量販PB業者）。

もっとも、系列価格の下振れと先行き不透

明感から強気もできず、高値玉への引き合いまでは勢いが無い。

9号地も軟調。大手タンク業者は様子見に徹したものの、広域系数社が値下げに対応に動いた。商社系ターミナルや丸中ターミナルでは26.5円や26.8～27円の売買唱えが寄せられ、市況形成。また、27.5円を広く提示した広域系も一定の小口ながらオーダーを集めたようだ。大手タンク業者や中堅元売り玉を取り扱う広域系がこの日は様子見したこともあり、オーダーが分散されたようだ。

○軽油

製油所出し課税玉は前日比1.0円安の25.0～26.0円、未課税玉も同0.25円安の26.5～27.0円、9号地も同0.4円安の25.5～26.5円。

5月1日引取り分の製油所、9号地は続落。民族系元売りが先行2社に歩調を合わせて仕切り6.5円引き下げたため、同社玉を取り扱う卸業者も応分の値下げに動いた。

四日市製油所出し課税玉は、民族系元売り玉を織り込む卸業者が25.5～26円を複数向けに提示。また、別の広域系複数が旧外資系元売り玉や商社系ディーラー玉など、複数をベースに25～25.2円まで対応したようだ。大型連休後も産燃向け需要の回復は鈍いと判

断した広域系が一步踏み込んだ格好だ。

市場では26.5～27円の売買唱えも散見されたが、関心を示す市場関係者は見当たらなかった。

未課税玉も弱い。特徴義務者向けとして四日市玉を取り扱う広域系が26.5円を提示したほか、別の広域系も27円に対応可と複数に伝えた。

愛知方面では、民族系最大手玉をベースに27.7円提示の卸業者も見受けられたが、市場は割高と判断し、関心を示す声は寄せられず。

9号地も続落。大手タンク業者は価格改定を見送ったものの、商社系ターミナルや丸中

ターミナルでは、広域系中心に課税玉25.5～26円、さらに26.5円まで複数の売買唱えが散発。27円台提示の唱えに関心を示す市場関係者はほとんどいなかった。

需給面では、愛知県や三重県を含む東日本の在庫を見ると25日現在、75万8,990klに積

み上がり、前年を11.3%上回った。低調な小売り販売のほか、産燃向けの鈍化も響く。

週決めインタク商談では、愛知県や三重県の一般陸運向けで届け58.5～59円の提示が伝えられた。

○重油

製油所出しLSA重油は前日比0.35円安の25.3～26.0円、9号地は変わらずの25.5～26.5円、製油所出しA重油は同0.35円安の24.8～25.5円。

5月1日引取り分の製油所出しは続落。白油同様、民族系玉を取り扱う卸業者の値下げで、全体の水準が切り下がった。同社玉を取り扱う地場系が25.3円、旧外資系玉などを織り込む卸業者が25.5～26円の売買唱えを展開し、市況を形成した。ただし、産燃向けのやり取

りが小休止状態にあるため、「アイデアベースの側面も強い」（地場系）。

9号地は様子見。大手タンク業者は価格改定を見送ったほか、広域系数社も微調整にとどめた。動意があるガソリンに注力する卸業者も多かったようだ。

商社系ターミナルや丸中ターミナルを中心に前日並みの25.5～26.5円の売買唱え、ないしは小口ながらオーダーを拾う広域系も見受けられた。

◎阪神

○概況

5月渡し商談に切り変わったスポット市況は製油所出し、油槽所出しの白油が続落。手持ち玉の払底などで前日まで様子見に退いていた卸業者から売りが戻った。コスモ石油マーケティングが30日、31日以降出荷分に適用する仕切り価格を全油種で6.5円引き下げたのも織り込まれた。

○ガソリン

製油所出しが前日から0.85円安の24.0～24.7円（揮発油税込み77.8～78.5円）、油槽所出しが同1.35円安の24.0～24.7円（揮発油税込み77.8～78.5円）。

スポット価格は製油所出し、油槽所出しともに続落。5月渡し商談への移行を機に、これまで外販枠の消化済みで静観に退いていたディーラーが売り気を強めた。足元の原油高が不安視されてはいるものの、外出規制に伴う需要減が目を追うごとに深刻化しており、原油高以上に「枠の消化遅れに対する不安が勝っている」（卸業者）。月間平均玉を扱う複数のディーラーも早速自社玉消化に動き始めた。

油槽所も売りが優勢だが、一方では原油相場の上昇で値下げに慎重な声もあり、売り方には卸業者ごとの温度差が出ている面もある。なお、29日の店頭では客足の鈍さが響き、前年同日比で5割近くガソリン出荷を落としたSSもある。足元では住宅街より、観光地、社用車の多い都市部で減販の傾向が強い。

製油所出しでは、向け先ごとに提示価格の差が大きい。早い時間帯の届け取引における商談水準の下値を潜る格好で、蔵取り玉を値下げする動きが出ており、SS向けなどでは最終的に77円程度～77.5円で商談されるケースがあったという。ただ、業者間取引でこの水

準の玉を手当て可能な業者は少ないのも実情のようだ。5月1日渡し分では、四国の中堅元売りなどとみられるルートから77.8~78円の唱えが浮上。四国の中堅元売り玉や中堅元売り玉をベースに販価を組み立てたディーラーは78~78.5円で打ち出している。民族系元売りルートでも78~78.5円の出物がみられた。78.5円超の唱えも聞かれるが、積極的に商談された様子は窺えない。

油槽所出しでは、櫻島ターミナルで77.8~78.2円の唱えが浮上。堺ターミナルでは77.8~78.5円の販価が聞かれた。油槽所では77.8円割れの出物も点在するが、業者間取引についてみれば、手当て可能な業者はやや限られ

ているもよう。78.5円超の売り物もあるが、買い手の反応は振るわない。

阪神出しの届け取引では、安値圏でEX換算77~77円台半ばの取引が見え隠れ。全体的には同77円台後半~78円台前半の売り物により厚みがありそうだ。

元売りの市中調達関連は表面化せず。民族系大手元売りも様子見に退いている。

西日本の海上市況は、現在26円台前半で推移している。

石連週報によると、直近25日時点の西日本ガソリン在庫は、前年同期比41.7%増の99万483klとなっている。

○灯油

製油所出しが前日から0.25円安の26.5~27.3円、油槽所出しが同3.0円安の26.0~27.0円。

スポット価格は製油所出し、油槽所出しともに下落。手持ち玉の消化売りが先行しており、地合いが弱まっている。ただ、製油所では不需求期で売り余力がそう多くないとして、踏み込んだ価格提示を避けたり、値上げに踏み切る卸業者も散見され、各社一様に下値を探った訳ではなさそうだ。

製油所出しでは、中堅元売り玉や四国の中堅元売り玉を含んだ26.5~27円の販価が5月1日期限で浮上。旧米メジャー系元売りともみられるルートでは26.8~27円の唱えが聞かれた。また、旧外資系元売りルートでは26.9~27円

の唱えが散見。四国の中堅元売りルートでは27~27.3円の出物もあった。中堅元売り玉をベースとする27.2円の出物もある。足元は27.3円超の唱えも多いが、買い手の反応はやや鈍くなるようだ。

油槽所出しでは、櫻島ターミナルで26~26.5円の出物がみられた。堺ターミナルでは26.5~27円の販価が寄せられている。油槽所では27円超の出物も多いが、荷動きは精彩を欠いている。

西日本の海上市況は、現在24円台前半で推移している。

石連週報によると、直近25日時点の西日本灯油在庫は、前年同期比19.2%増の47万1,679klとなっている。

○軽油

製油所出し課税玉が前日から0.85円安の25.5~26.3円、未課税玉が同0.25円安の26.5~27.0円、油槽所出しが同3.0円安の26.0~27.0円。

スポット価格は製油所出し、油槽所出しともに下落。月変わり売り余力が復調した卸

業者が増え、売りが出やすくなっている。新型肺炎に伴う観光、物流、建機向けの荷動きが精彩を欠くのも弱材料だ。

製油所出しの課税玉では、中堅元売り玉などをベースに販価を組み立てた卸業者が5月1日渡し分を25.5~25.9円で販売。四国の中堅

元売りルートでは25.8～26円程度の出物がみられた。また、民族系元売りルートなどでは26～26.3円の唱えが浮上。中堅元売りルートでは26.3円の出物がみられた。26.3円超の売り物も多いが、買い手の反応はやや冴えない。

製油所出しの未課税玉は、1日渡し分を対象とする26.5～27円の販価が浮上。旧外資系元売りや旧米メジャー系元売りルートなどとみられる出物だ。27円超の売り物もあるが、買い手の関心はいまひとつ。26.5円を割り込んだ玉も見え隠れするが、手当て可能な業者はやや限られているもよう。

油槽所出しでは、堺ターミナル出しの課税玉が26～26円台半ば。26円を割った出物も流

通するが、現状でここまでの対応は見送るディーラーも散見される。一方、櫻島ターミナル出しの未課税玉では26.5～27円の唱えが聞かれた。27円超の売り物に関しては買い手の反応は鈍くなるという。

インタンク向けの週決め交渉では、兵庫県下の運送会社向けが届け58円台後半で妥結。大阪府下の運送会社向けは同59円台後半で取引がまとまるケースもある。

西日本の海上市況は、現在28円台後半で推移している。

石連週報によると、直近25日時点の西日本軽油在庫は、前年同期比28.1%増の65万9,251klとなっている。

○重油

A 重油は製油所出しが前日から0.1円高の24.8～25.5円。LSA 重油は製油所出しが同0.1円高の25.3～26.0円、油槽所出しが同0.1円高の25.5～26.2円。

スポット価格は製油所出し、油槽所出しともに反発。4月渡し商談の終盤戦でみられた月次枠の消化売りが一部後退し、上値が軽くなっている。ただ、ゴールデンウィークに伴う需要家の休暇入りなどで商談は盛り上がり欠けているという。

製油所出しのLSA 重油では、前日まで安値圏で商談したディーラーの間で値上げが表面化したものの、一方では月次枠が復活した別の卸業者から売りが出たため、商談水準の下値は変わっていない。中堅元売り玉の取扱い業者が、5月1日渡し分を25.3～26円で提示。

広域ディーラーの一角も25.3円で打ち出している。また、旧外資系元売りルートでは25円台半ば～26円の唱えも浮上。旧米メジャー系元売り玉などの取扱い業者は25.7円で打ち出している。このほか旧米メジャー系元売りルートでは25.8円の出物もみられた。26円超の売り物も多いが、荷動きはやや精彩を欠くようだ。

製油所出しの A 重油は24.8～25.5円。LSA 重油比0.5円安で推移している。

西日本の海上市況は、現在 A 重油が25円台半ば、LSA 重油が26円程度で推移している。

石連週報によると、直近25日時点の西日本 A 重油在庫は、前年同期比14.6%減の16万8,325kl、西日本 LSA 重油在庫は同6.6%増の12万792kl だった。

◎四国

○概況

5月渡し商談に切り変わったスポット市況は、4月渡し分の最終取引日だった前日と比較し、全油種で続落。4月渡し商談の終盤戦で表面化した販売枠の終了が、月変わりを契機に解消し出物が厚みを増している。コスモ石油マーケティングがこの日、5月1日以降出荷分に適用する仕切り価格を全油種で6.5円引き下げたのも材料視された。

○ガソリン

前日比1.25円安の24.7～25.2円(揮発油税込み78.5～79.0円)。

スポット価格は続落。手持ち玉の少なさから前日まで様子見に退いていた卸業者の売りが戻り、商談水準が下押しされた。足元は掛けで調達する買い手向けを中心に5月1日渡し分でのオーダーが集まっており、配送の日延べも発生している。ただ、新型コロナによる需要減は解消されておらず、目先の引き合い増は一過性で持続力が乏しいとの見方が多い。

坂出では、民族系元売りルートで5月1日渡し分を対象とする78.5～78.8円の唱えが浮上。他社玉をベースに販価を組み立てたディーラ

ーも78円台後半で打ち出している。このほか民族系元売りルートでは79円までの出物も散見された。79円超の販価も寄せられているが、積極的に商われた様子は窺えない。78.5円割れでの商談も進行中だが、手当て可能なディーラーはやや限られている。

菊間の業者間取引では、79円台後半の売り物が見積もりベースで手当て可能となっている。

中国地区では、水島出しが78円程度～78円台半ば、宇部出しが77円台前半～78円台前半でそれぞれ一定の荷動きがあるという。

○灯油

前日比0.75円安の27.5～28.0円

スポット価格は続落。5月渡し商談への移行を契機に、販売余力が回復した卸業者から売りが出ている。

坂出では、民族系元売り玉などの取扱い業者が、5月1日渡し分を27.5円で商談。民族系元売りルートでは27.5～28円の出物もみられた。また、旧外資系元売り玉などとみられる

27.9～28円の唱えも寄せられている。足元では28円超の売り物も多いが、買い手の関心は総じて鈍い。27.5円を割り込んだ取引も行われているが、個別交渉の側面が大きいなど、手当て可能な業者はやや少ない。

菊間の業者間では、28円程度の売り物が見積もりベースで買付け可能となっている。

○軽油

前日比0.8円安の26.0～27.0円。

スポット市況は続落。手持ち玉が復活したディーラーから売りが戻り、商談水準が切り下がった。

坂出出しの課税玉では、複数ルートの仕入れを有する卸業者が、5月1日期限で26円～26円台半ばの販価を提示。民族系元売り玉や旧外資系元売り玉をベースとする26円台半ばの唱えも聞かれた。このほか他社玉を担ぎ26円

台後半で打ち出すディーラーもみられる。26円割れの出物もあるが、ここまで踏み込む業者はやや限られているもよう。一方、未課税玉は27円台半ばからの売り物に厚みがあるが、課税玉の値位置を勘案すると、オーダーの入りやすい水準は27円までとの意見が出ている。

菊間の業者間では、29円程度の未課税玉が見積もりベースで調達可能となっている。

○重油

A 重油は前日比0.3円安の25.9～26.5円、LSA 重油は同0.3円安の26.4～27.0円。

スポット市況は続落。月変わりに伴い4月渡し商談の終盤でみられた品薄感が解消している。

坂出出しのA重油では、民族系元売ルートから5月1日渡し分を対象とする25.9～26.5円の唱えが浮上。旧外資系元売ルートでも25.9～26.5円の唱えが聞かれた。このほか他

社玉を担いだディーラーは26円台前半で打ち出している。

LSA 重油は26.4～27円。A 重油、LSA 重油ともこれらの価格帯に該当しない唱えも聞かれるが、積極的に商談された様子は窺えない。

菊間の業者間では、A 重油で26円台前半、LSA 重油で26円台後半の出物が見積もりベースで手当て可能となっている。

◎九州（福岡）

○概況

5月商談がスタートしたが、全油種で4月の商談水準から下落している。原油、東商取先物市況は急伸したものの、唱えを大きく引き上げる動きは極めて少数だった。引き続き、販売不振が強く意識されている状況とあって、売り圧力は強いままだった。

○ガソリン

前日比0.25円安の24.2～24.7円（揮発油税込み78.0～78.5円）。

スポット価格は前日から続落している。店頭の販売不振が顕著なため、なかなか唱えの引き上げに踏み切れない業者が散見される。先物市況の上伸を背景に値上げして様子見る業者もいたものの、依然として安値の玉も出回っているため、相場の底上げには至っていない。

西戸崎での一般的な売唱えは78円台となっている。前日まで79円台や80円台で様子見していた業者が78.4～78.5円を見積りで提

示しているため、買い手はこれらの玉が容易に確保可能となっている。また、個別交渉でのディスカウントも散見されており、調達量の多い買い手には78円や一部77円台後半まで踏み込んでオーダーを喚起する動きも見受けられた。

東浜でも、西戸崎同様78円台の売り物が散見されており、78.5～78.7円が複数ルートで確保可能だ。また、売り込みのために78～78.3円といった水準まで踏み込む業者もいた。

○灯油

前日比1.15円安の27.5～28.2円。

スポット相場は前日の水準から大幅に切り下がっている。先安を意識し、長期休暇入り前に一定量の販売を済ませたい業者が多いもよう。

西戸崎で提示されている売値では28～28.2円といった水準だ。市況連動玉がベース

となっているようだ。また、個別交渉では扱い数量の多い業者などが27.5～27.6円で販売を進めるケースがあり、地場有力ディーラーには27円台前半で販売が進められる動きもあった。

荒津、東浜では引き続き28円台後半～29円前後が一般的な唱えで、西戸崎出しより割高

で推移している。

○軽油

前日比1.0円安の27.0～28.0円。

スポット相場は軟調。ガソリンほどではないものの、販売の鈍化が意識されている。課税玉では前日より1円程度安い27円台の唱えが複数出荷地で出回っている。西戸崎では27.2～27.4円など、27円台前半の売込みが散見されている。また、東浜では27円、荒津では27.1円といった価格が提示されていた。いずれも市況連

動玉をベースとしている可能性が高い。

未課税玉では見積もりは28.5～29.5円となつてはいるが、課税玉の水準が26円台で出回っていることを意識して28円や28.5円を提示してオーダーを喚起する業者もいた。また、売り先を選定して27円台半ばまで打ち出す業者もいるようだ。

○重油

A重油は26.4～27.2円、LSA重油は26.9～27.7円といずれも前日比0.4円安。

スポット相場は続落している。この日は西戸崎出しが割安となっており、A重油で26円台の提示が散見され始めた。26.4～26.7円といった唱えが複数の売り手から調達できる。荒津出しは民族系の大手元売り玉などが

27.2円、27.3～27.5円で手当て可能だ。前日まで出回っていた26円台の玉は、この日は姿を消している。

LSA重油はA重油比で0.5円の上ザヤを形成して推移している。26.9～27.7円が複数の出荷地で調達可能となっている。

◎陸上ローリーラック価格月間平均確定値（20年4月）

※小数点第3位を四捨五入

	ガソリン	灯油	課税軽油	未課税軽油	A重油	LSA重油
北海道（油槽所）	34.13	34.65	35.73	-	33.99	-
仙台（製油所）	33.99	35.51	35.36	-	33.71	34.21
千葉（製油所）	32.68	34.54	34.29	35.04	33.54	33.93
東京・埼玉（油槽所）	33.25	36.33	36.32	-	-	35.00
川崎（製油所）	33.46	35.06	34.62	35.25	33.59	34.10
横浜（油槽所）	32.67	34.90	35.93	-	-	35.72
中京（製油所）	31.49	35.05	34.03	35.05	33.59	34.11
中京（油槽所）	30.75	34.92	34.39	-	-	34.10
阪神（製油所）	31.78	34.97	33.88	35.02	33.64	34.10
阪神（油槽所）	31.36	34.80	34.38	-	-	34.30
四国（製油所）	32.95	36.02	34.63	-	34.53	35.03
福岡（油槽所）	31.45	35.94	35.43	-	34.80	35.34
製油所平均	32.72	35.19	34.47	-	33.77	34.25
4製油所平均	32.35	34.91	34.20	35.09	33.59	34.06
油槽所平均	32.27	35.26	35.36	-	34.40	34.89

◎マーケットニュース

○コスモ石油マーケ=5月14日までの基準価格を通知、全油種で引き下げ

コスモ石油マーケティングは5月1日以降に適用する系列向け基準価格を、全油種ともに現行から6.5円引き下げる。市場関係者が30日、明らかにした。今回の改定は5月14日までの2週間分の出荷に適用となる。

28日に30日～5月13日以降の基準価格を通知していたJXTGエネルギーも、全油種で6.5円の引き下げを通知していた。

○陸上入札=青森県立中央病院向け5月A重油、届け30円台で落札

青森県立中央病院が26日開札した5月納期のA重油96klは、届け40.3円で落札され、前月を9.5円下回った。落札業者は富士見総業。

○週間SS市況調査=レギュラーガソリンの全国平均、14週連続の下落

資源エネルギー庁が30日に公表した給油所の週間市況調査によると、27日の全国平均価格は、レギュラーガソリンが129.0円で前週から1.9円安、14週連続の値下がりとなった。ハイオクガソリンは139.8円で、前週から2.0円の続落と、原油価格の下落を映した。

都道府県別の動向として、レギュラーガソリンの値上がり、横ばいは該当なし。値下がり47都道府県だった。沖縄県を除く都道府県別のレギュラーの最安値は3週続けて香川県(前週比0.83円安)で129.3円。これに徳島県の119.5円と四国で安売りが目立つ。対する最高値は長崎県の140.1円(同0.9円安)となった。

軽油は110.3円で前週比1.9円安、灯油は79.1円(18リットルあたり1,424円)で前週から1.5円安だった。

都道府県別・石油製品市況週動向査=2020/4/27									
	ハイオク		レギュラー		軽油		灯油(店頭)		
		前週比		前週比		前週比		前週比	
北海道局		132.1	-0.8	121.7	-0.8	105.4	-0.9	1,330	-34
東北局	青森	131.6	-4.8	120.6	-4.6	102.8	-4.8	1,248	-52
	岩手	133.2	-1.4	122.1	-1.6	103.8	-1.7	1,266	-43
	宮城	134.0	-3.0	123.2	-3.1	104.9	-3.1	1,345	-21
	秋田	133.8	-1.5	122.6	-1.5	107.2	-2.8	1,243	+1
	山形	141.7	-3.2	130.2	-3.1	115.2	-2.4	1,285	-38
	福島	142.9	-2.3	131.6	-2.2	111.6	-2.2	1,377	-29
	茨城	135.7	-2.8	124.7	-2.7	107.2	-3.0	1,290	-31
東北局	栃木	137.0	-2.0	125.9	-2.0	106.3	-1.7	1,389	-25
	群馬	138.0	-2.3	126.8	-2.2	107.5	-2.2	1,408	-28
	埼玉	142.2	-3.1	131.0	-3.0	112.4	-2.8	1,443	-21
	千葉	137.4	-1.9	126.5	-1.9	106.2	-2.6	1,484	-22
	東京	137.0	-2.0	126.3	-2.1	108.7	-1.6	1,510	-6
	神奈川	143.0	-1.7	132.4	-1.7	113.6	-1.7	1,674	-35
	新潟	137.9	-1.8	126.9	-1.8	109.0	-1.5	1,580	-5
	長野	142.0	-1.4	130.5	-1.8	117.0	-1.8	1,492	-23
	山梨	146.0	-1.8	134.8	-1.7	114.1	-1.7	1,365	-26
	山梨	139.7	-1.6	128.2	-1.6	108.3	-1.7	1,360	-26

関東局	静岡	岡	140.9	-1.4	129.6	-1.3	110.1	-1.4	1,503	-18
			140.1	-1.9	129.0	-1.9	110.4	-1.8	1,481	-21
中部局	愛知	知	135.6	-1.5	124.6	-1.5	105.6	-1.6	1,525	-23
		豊	141.4	-2.0	130.2	-1.9	110.0	-1.8	1,416	-26
		三	141.2	-1.6	130.0	-1.6	112.9	-1.4	1,459	-30
		富	135.4	-2.6	124.4	-2.5	107.3	-2.7	1,398	-27
		山	136.8	-2.0	126.2	-1.9	109.0	-2.0	1,338	-25
		川	138.3	-1.9	127.2	-1.9	108.9	-1.9	1,439	-26
			143.2	-1.9	131.7	-1.8	111.9	-3.3	1,351	-58
近畿局	福井	井	142.4	-2.9	131.3	-3.1	112.0	-3.0	1,503	-42
		滋	148.2	-1.3	136.9	-1.4	116.2	-1.4	1,591	-7
		京	142.7	-2.3	131.5	-2.3	112.2	-2.1	1,482	-26
		奈	145.1	-1.3	134.3	-1.3	113.6	-1.6	1,560	0
		大	141.7	-2.2	130.7	-2.4	111.6	-1.8	1,452	-14
		兵	140.1	-1.0	130.0	-0.8	109.3	-1.0	1,395	-21
		庫	143.4	-1.8	132.3	-1.9	112.4	-2.1	1,472	-24
中国局	和歌山	山	136.7	-0.3	125.5	-0.3	111.6	-0.5	1,384	-9
		取	137.8	-1.0	126.6	-1.3	109.6	-1.1	1,369	-17
		根	135.5	-2.4	124.5	-2.5	105.3	-2.5	1,403	-23
		山	137.0	-0.8	126.3	-0.9	110.0	-0.7	1,460	-13
		島	136.8	-1.1	126.2	-1.0	108.2	-0.8	1,334	-9
		口	136.8	-1.1	125.9	-1.2	108.9	-1.1	1,388	-15
			130.2	-2.5	119.5	-2.5	100.2	-2.2	1,254	-44
四国局	徳島	島	130.2	-0.9	119.3	-0.8	100.4	-0.9	1,323	-6
		香	142.1	-2.3	131.2	-2.3	110.0	-2.1	1,456	-42
		媛	146.7	-2.3	136.7	-2.2	114.6	-2.3	1,408	-46
		高	137.1	-2.4	126.4	-2.4	106.0	-2.3	1,360	-37
		知	144.0	-1.1	132.4	-1.3	112.6	-0.7	1,405	-24
		岡	146.0	-2.9	134.7	-3.0	116.2	-2.2	1,499	-27
		賀	149.8	-0.9	140.1	-0.9	121.7	-1.0	1,524	-6
九州局	長崎	崎	139.6	-3.2	129.0	-3.0	107.1	-3.0	1,342	-48
		本	150.8	-1.3	140.0	-1.2	117.4	-1.6	1,455	-34
		分	146.1	-2.9	135.5	-2.9	117.0	-2.5	1,484	-57
		宮	145.9	-2.3	136.4	-2.1	117.5	-1.9	1,495	-28
		崎	146.1	-2.1	135.5	-2.1	115.8	-1.8	1,459	-34
		鹿	143.9	-1.3	135.0	-1.9	119.6	-1.3	1,581	-9
		児	145.9	-2.1	135.5	-2.0	116.2	-1.8	1,468	-32
九州局	全国平均		139.8	-2.0	129.0	-1.9	110.3	-1.9	1,424	-26

出所：資源エネルギー庁

調査対象は約2,000店。ガソリン、軽油は円/ℓ、灯油は店頭18ℓ。現金ベース。

○資源エネルギー庁＝産業用軽油・A重油価格月次調査2020年3月

軽油インタンク			
	価格	前月比	JCC格差
北海道	96.7	-10.8	+22.2
東北	95.0	-10.7	+20.5
関東	92.3	-9.4	+17.8
中部	96.0	-8.2	+21.5
近畿	93.0	-9.3	+18.5

中国	94.0	-9.4	+19.5
四国	87.9	-11.4	+13.4
九州・沖縄	100.2	-8.4	+25.7
全国	94.4	-9.6	+19.9
A重油大型ローリー一納入(8kl以上)			
北海道	62.8	-11.4	+20.4
東北	63.5	-8.2	+21.1
関東	58.8	-9.8	+16.4
中部	60.1	-8.5	+17.7
近畿	62.2	-7.5	+19.8
中国	62.9	-8.4	+20.5
四国	58.5	-10.7	+16.1
九州・沖縄	67.5	-9.1	+25.1
全国	61.7	-9.1	+19.3
A重油小型ローリー一納入(8kl未満)			
北海道	73.4	-9.2	+31.0
東北	72.1	-7.8	+29.7
関東	69.6	-8.4	+27.2
中部	70.8	-7.3	+28.4
近畿	73.1	-7.2	+30.7
中国	74.9	-7.8	+32.5
四国	70.7	-9.3	+28.3
九州・沖縄	76.6	-6.9	+34.2
全国	72.5	-7.8	+30.1
JCC			42.4

単位：円/リットル 消費税抜き 対JCC格差は参考値。20年3月のJCCは速報値。

○[石油統計速報20年3月] 製品需給概要—経産省

	生産	輸入	販売	輸出	月末在庫
ガソリン	4,071,060	194,360	3,766,012	448,080	1,870,435
(前年比)	93.8	153.9	91.6	115.5	111.3
ナフサ	1,291,301	2,073,232	3,123,385	-	1,424,279
(前年比)	75.8	103.8	80.7	-	107.4
ジェット燃料油	938,137	5,613	398,268	524,659	815,744
(前年比)	64.4	95.8	78.5	62.2	101.1
灯油	1,373,901	91,228	1,501,425	94,814	1,445,009
(前年比)	111.6	186.9	97.6	-	107.1
軽油	3,300,164	91,658	2,880,147	584,917	1,410,047
(前年比)	90.6	110.0	96.3	63.0	104.6
A重油	1,017,399	12,263	896,525	154,904	712,128
(前年比)	91	205	88.3	130.5	88
BC重油	1,603,065	9,870	515,903	1,055,280	1,059,713
(前年比)	110.0	17.1	76.5	153.1	79.9
合計	13,595,027	2,478,224	13,081,665	2,862,654	8,737,355
(前年比)	91.0	106.6	88.9	96.4	101.1

(in kl)

下段は前年比%

*流通段階を除く

○原油・石油製品供給統計週報＝＜石油連盟全国＞

	今週 4/19～4/25	前週 4/12～4/18	前週比
製油所稼働状況			
週間原油処理量(kl)	2,743,672	2,994,687	-251,015
週間トッパー実稼働能力(b/d)	3,181,800	3,429,514	-247,714
週間トッパー実稼働率	77.5%	78.5%	-1.0
週間トッパー設計能力(b/d)	3,518,800	3,518,800	+0
週間トッパー設計能力稼働率	70.1%	76.5%	-6.4
石油製品週末在庫			
ガソリン	2,000,028	1,793,284	+206,744
ナフサ	1,504,024	1,755,839	-251,815
ジェット燃料油	724,097	699,984	+24,113
灯油	1,405,106	1,407,621	-2,515
軽油	1,418,241	1,297,582	+120,659
LSA 重油(S分0.1%以下)	301,857	279,029	+22,828
HSA 重油(S分0.1%超)	418,515	414,521	+3,994
A 重油計	720,372	693,550	+26,822
LSC 重油(S分0.5%以下)	738,171	708,508	+29,663
HSC 重油(S分0.5%超)	1,187,600	1,132,535	+55,065
C 重油計	1,925,771	1,841,043	+84,728
合計	9,697,639	9,488,903	+208,736
原油・半製品・装置原料週末在庫			
原油	12,703,405	13,361,701	-658,296
粗ガソリン	2,423,721	2,479,238	-55,517
粗灯油	566,146	647,768	-81,622
粗軽油	842,654	891,675	-49,021
粗A重油	592,308	581,831	+10,477
装置原料	2,941,200	2,874,373	+66,827
合計	7,366,029	7,474,885	-108,856
石油製品生産量			
ガソリン	764,191	771,686	-7,495
ナフサ	269,199	375,951	-106,752
ジェット燃料油	175,622	106,821	+68,801
灯油	224,510	286,876	-62,366
軽油	748,662	653,678	+94,984
LSA 重油(S分0.1%以下)	94,250	93,926	+324
HSA 重油(S分0.1%超)	104,434	104,030	+404
A 重油計	198,684	197,956	+728
LSC 重油(S分0.5%以下)	126,700	119,522	+7,178
HSC 重油(S分0.5%超)	169,718	161,701	+8,017
C 重油計	296,418	281,223	+15,195
合計	2,677,286	2,674,191	+3,095
石油製品輸入量			
ガソリン	n. a.	n. a.	-
ナフサ	n. a.	n. a.	-
ジェット燃料油	n. a.	n. a.	-
灯油	n. a.	n. a.	-
軽油	n. a.	n. a.	-
LSA 重油(S分0.1%以下)	n. a.	n. a.	-
HSA 重油(S分0.1%超)	n. a.	n. a.	-

A 重油計	n. a.	n. a.	-
LSC 重油 (S 分 0.5%以下)	20,269	0	+20,269
HSC 重油 (S 分 0.5%超)	40,241	0	+40,241
C 重油計	60,510	0	+60,510
合計	n. a.	n. a.	-
石油製品輸出入			
ガソリン	17,231	68,615	-51,384
ナフサ	0	5,040	-5,040
ジェット燃料油	120,407	77,160	+43,247
灯油	0	32,543	-32,543
軽油	92,094	53,167	+38,927
LSA 重油 (S 分 0.1%以下)	1,444	473	+971
HSA 重油 (S 分 0.1%超)	12,841	30,310	-17,469
A 重油計	14,285	30,783	-16,498
LSC 重油 (S 分 0.5%以下)	77,007	37,820	+39,187
HSC 重油 (S 分 0.5%超)	46,152	39,465	+6,687
C 重油計	123,159	77,285	+45,874
合計	367,176	344,593	+22,583

単位: kl

「n. a.」は現時点でサンプル数が少ないため発表対象外

○石油製品の推定週間出荷量(内需) 全国

	2020/4/19~4/25		前週比		前年比(4/21~4/27)	
	出荷量(kl)	日量平均(kl)	%	kl	%	kl
ガソリン	540,216	77,174	-18.3	-121,256	-42.6	-400,990
ナフサ	-	-	-	-	-	-
ジェット	31,102	4,443	-68.4	-67,181	-73.4	-85,644
灯油	227,025	32,432	+23.6	+43,297	+28.1	+49,762
軽油	535,909	76,558	-10.0	-59,383	-22.9	-159,037
LSA 重油	69,978	9,997	-25.7	-24,213	-32.3	-33,360
HSA 重油	87,599	12,514	+8.4	+6,760	-29.8	-37,160
A 重油計	157,577	22,511	-10.0	-17,453	-30.9	-70,520
LSC 重油	40,299	5,757	-32.4	-19,296	+53.8	+14,098
HSC 重油	108,742	15,535	+13.9	+13,286	+5.0	+5,143
C 重油計	149,041	21,292	-3.9	-6,010	+14.8	+19,241
合計	1,640,870	234,410	-12.2	-227,986	-28.3	-647,188

石油連盟週報から推計 合計にナフサは含んでいない

当該週出荷=前週末製品在庫+当該週生産+当該週輸入-当該週輸出-当該週末製品在庫

○季刊誌『エネルギー通信』発刊のお知らせ

リム情報開発は昨年8月20日、四半期のエネルギー動向が一気に把握できるように、初の季刊誌として『エネルギー通信』を発刊しました。石油、ガス、石炭など化石燃料の市況動向や各種貿易統計、小売自由化が進む電力やガス事業を含む国内エネルギー業界の最新事情、その他エネルギーにかかわる幅広いトピックを取り上げます。リム情報開発がこれまでに蓄積してきた各エネルギーの価格情報をもとに、エネルギーの『いま』を易しく、かつ詳しく解説します。リムが得意とする日々の取引動向をミクロの情報とすると、『エネルギー通信』では、業界の大きな流れを俯瞰するマクロの情報を掲載していきます。『エネルギー通信』は2、5、8、11月の各月下旬に発刊いたします。購読はWEB閲覧のみとなり、価格は年間契約の場合18,000円(各号5,000円)です。下記のリンクよりお申し込みください。

【目次】

- 1 各種市況サマリー
- ① 原油②LNG③LP ガス④ガソリン⑤電力⑥石炭
- 2 エネルギーアウトック
- ① エスカレートする米国・イラン対立の経緯②ホルムズ海峡を巡り偶発的事態発生リスク高まる⑤原油市場の見通し-3つのシナリオほか
- 3 アジア各国の製油所稼働状況
- 4 各種貿易統計
- 5 国内エネルギー事業
- 6 エネルギー・フォーカス
- 7 ニュースアーカイブ

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/eneletter>

○リム電力レポートの英語版発刊のお知らせ

リム情報開発は、2020年1月6日(月)にリム電力レポートの英語版を発刊しました。日本の電力市場は、20兆円の市場規模と世界でも有数の規模を誇る中、2016年4月の電力小売全面自由化以降、海外の事業者からも新規参入の動きが相次いでいます。特に海外の事業者による卸電力市場への注目度は高く、日本の卸電力市場の動向を理解する上で、電力レポートの英語版を希望する声はこれまでも多くありました。

このたび、こうした声に応えるべく、当社では英語版を発刊する運びとなりましたので、お知らせ致します。新たに発刊する英語版でも、日々の卸電力取引の動向を詳細に伝えるとともに、火力発電の動向、スパーク/ダークスプレッド、多種多様なグラフなど、日本語版と同様の情報を掲載して参ります。

詳細は電力チーム(03-3552-2411、info@rim-intelligence.co.jp)までお問い合わせください。

◇弊社ウェブサイトURLは www.rim-intelligence.co.jp

◇リム価格は登録商標です。登録番号は第5387777号。

○『バイオマスレポート』発刊のお知らせ

リム情報開発は1月23日、発電用の木質ペレットやPKS(パームヤシ殻)の価格評価を始めました。この価格評価や市場動向などを網羅した週刊『バイオマスレポート』を発刊し、関係者の皆様に役立つ情報をお届けします。世界的に環境問題に対する意識が高まる中、木質バイオマスを燃料とした発電所の建設が国内でも相次いでいます。これに伴い、木質バイオマスの価格動向に対する関心がかつてないほど高まっています。『バイオマスレポート』は、国際市場の動向に留まらず、国内未利用木材の動向や各種貿易統計、入札情報などを随時掲載していきます。

『バイオマスレポート』は毎週木曜日に発刊いたします。価格は毎月20,000円です。下記のリンクよりお申し込みください。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/bio/>

※リムレポートの転送は著作権により堅く禁じられております。購読契約者である組織以外だけでなく、同契約者の組織内の他部署、支社、支店などへの転送も出来ません。本レポートの全部もしくは一部の転載も禁じられています。著作権違反が発覚した場合、違約金が発生することがあります。本レポートに記載された情報の正確性については万全を期しておりますが、購読者が本レポートの情報をを用いて行う一切の行為に関して、リム情報開発株式会社は責任を負いません。また、天災、事変その他非常事態が発生し、または発生するおそれがあり、運営が困難となった場合、レポ



ート発行を一時的に中断することがあります。

事業所一覧

[東京本社]

Tel: 03-3552-2411, Fax: 03-3552-2415

e-mail: info@rim-intelligence.co.jp

[シンガポール支局]

Tel: (65)-6345-9894, Fax (65)-6345-9894,

e-mail: hagimoto@rim-intelligence.co.jp

[北京支社]

Tel: (86)10-6498-0455, Fax: (86)10-6428-1725

e-mail: guan hong@rimbj.com

[上海支社]

Tel: (86)-21-5111-3575, e-mail: rim_sh@rim-intelligence.co.jp

(C) 2020 RIM INTELLIGENCE CO.